

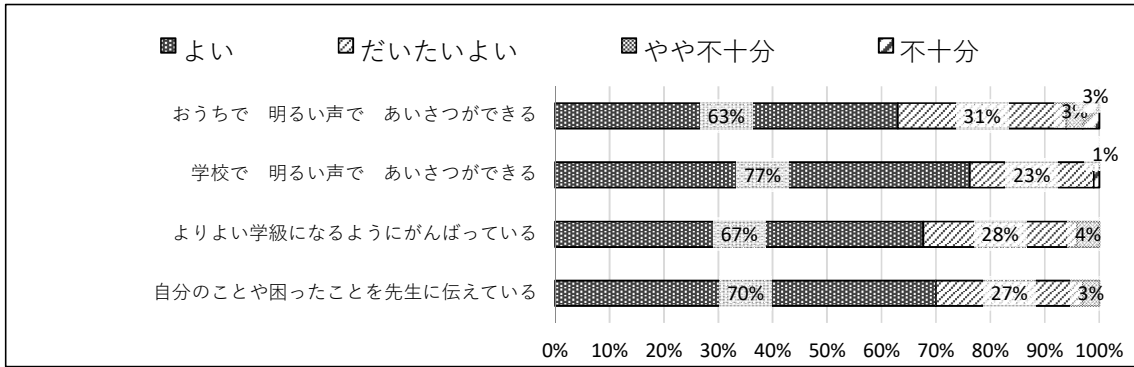
# I 思いやりの心 たくましい心

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
人を思いやり、助け合う心情と態度を醸成しながら、自立への基礎をはぐくもうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	目指すあいさつについて各学年で話し合いをもつなど、児童主体で様々なアプローチをしながらあいさつ運動を進めていることが評価できる。児童理解のために行っているいじめアンケートは、アンケートの内容やアンケート後の児童に対するフォローアップにも工夫して取り組んでほしい。また、アンケートばかりでなく、日頃から児童と直接話すことも大切にしてほしい。
	年度			

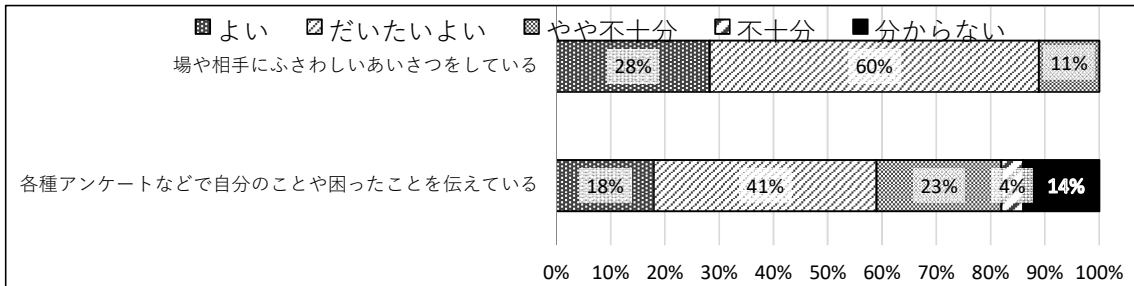
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期(一年度)】</p> <p>(1)月に1回行っている全校あいさつ運動では、事前に学級であいさつの意義について指導したり、児童会テーマの「笑顔」あふれる上小にするためにはどんな活動ができるのかを検討したりした。それにより、サuntimeやお昼休みのあいさつ運動など、様々なあいさつ運動が行われるようになった。今後は、児童があいさつを振り返り自ら改善していけるよう、あいさつマスター制度を児童会で制定していきたい。</p> <p>(2)学級力アンケートを行い、学級全員で課題を捉え、対策方法について話し合った。後期にも学級力アンケートを行い、その後の学級力の確認と新たな課題設定を行う予定である。</p> <p>(3)委員会に対して、各学級から「こうしてみてもいい？」という提案を出し、委員会活動をよりよくしようと活動した。また、生活のきまりについて話し合わせ、児童総会で意見を出し合った。きまりの見直しに児童生徒が参加することで、きまりを単に受け入れるだけでなく、根拠や影響を考えて自らきまりを守ろうとする態度が芽生えてきた。今後も児童の自主性を重んじた活動を工夫していきたい。</p> <p>(4)昨年度まで年3回だったいじめアンケートを、いじめの早期発見・早期対応のために、今年度から毎月行っている。これにより、97%の児童が自分の事や困ったことを先生たちに伝えていると回答している。今後も定期的にアンケートを行いながらも、気になる子にはその都度適宜声かけを行っていきたい。</p> <p>(5)教育支援会議やケース会議等について、生徒指導主事を中心とした体制の整備を行った。それにより、会議等が速やかに開催され、必要な支援を迅速に決めることができた。今後も体制の整備を進めていきたい。</p>

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 基本的な生活習慣	(1)場に応じた言葉遣いとさわやかなあいさつ	振り返りカードを活用した自己評価と実態把握 あいさつ運動の実施 ハートデーの実施	3	
2 集団生活・集団活動	(2)認め合い、高め合う学級・学団	学級経営・学団経営の充実 学級活動や学団集会、行事における活躍の場の設定と適切な称揚	3	
	(3)協力し、支え合う異学年集団	児童の考えを生かした児童会活動の充実 縦割り班による活動(清掃、委員会活動、児童総会等)	4	
3 一人一人のよさの発揮	(4)児童理解の充実	いじめアンケートや教育相談週間の実施と活用	4	
4 組織的な生徒指導	(5)指導支援の充実	児童を語る会や教育支援委員会、ケース会議の充実と全職員による支援体制の確立 スクールカウンセラー等外部機関と連携した支援	3	

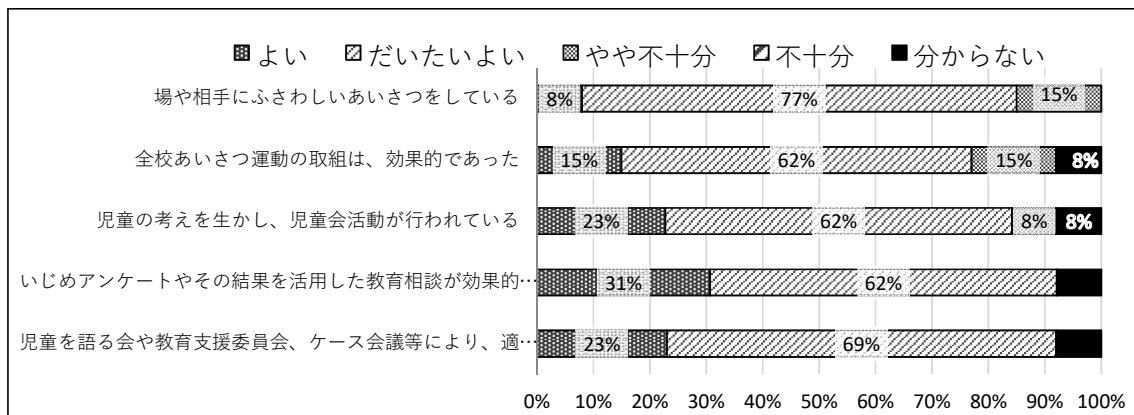
### 児童へのアンケート結果



### 保護者へのアンケート結果



### 職員へのアンケート結果

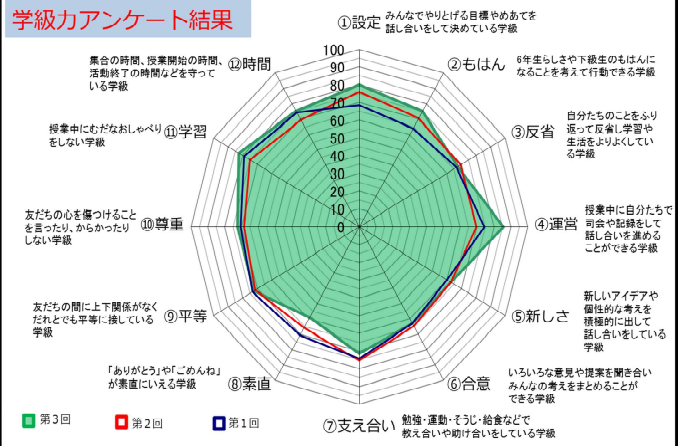


全校あいさつ運動



高学団集会での話し合い

### 学級力アンケート結果



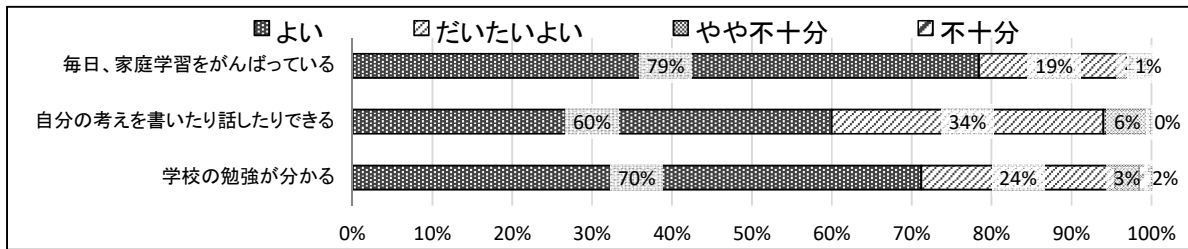
学級力アンケート

## Ⅱ 基礎学力の定着

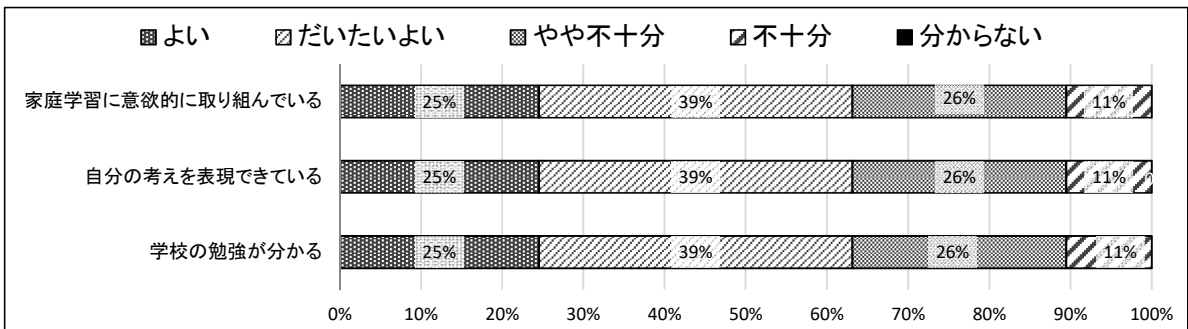
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基礎学力の定着と表現力の育成を通して、主体的に学び合うことのできるよう工夫している。	前期	おおむね良好	おおむね良好	家庭学習への取組について、児童、保護者、職員でアンケート結果に差が見られるが、学年の発達段階を考慮すれば妥当な結果だと思われる。ICTについては、電子黒板が増えたことにより、以前より活用が進んでいてよい。タブレットで考えを表現する方法もあるが、考えを声に出して発表し合う授業も必要である。デジタルとアナログのバランスをとって授業を進めてほしい。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】			
	<p>(6)基本的な学習習慣の形成のため、学期はじめに「学習の約束」強調週間を設定した。その後に行った全校朝会では、強調週間での児童の振り返りを基にそれぞれの項目の現状を点数化して発表することで、強調週間以降も自分たちの課題を意識して学習していくことができるようにした。家庭学習では、毎日がんばっていると答えた児童が98%だが、保護者アンケートからは自分から取り組んでいる児童が少ないことが分かる。主体的に家庭学習に取り組むことができるように、全校ノート展を定期的で開催したり、おたより等で紹介したりして意欲を高めていく。</p> <p>(7)学習課題を自分たちで解決していくことができるように見通しの時間を大切に毎日授業を行っている。「道具」「作戦」など、発達段階に合わせて児童が捉えやすい言葉を使って見通しをもたせることで、児童自身が考え進めていく学習を行うことができた。また、学び合いの場面でICTを活用することで、児童の表現意欲を高めるとともに、より分かりやすく充実した話し合いを行うことができていく。さらに児童の表現意欲を高めていく取組を工夫していく。</p> <p>(8)学びのあとが分かる掲示や、取組の参考となる作品の掲示を行っている。図書活動では、図書委員会による図書室での読み聞かせ会や本クイズを行い、児童が図書室に行きたくなるような企画を充実させた。花壇や学習園・学習田なども地域の方の協力も得ながら整え活用し、体験的な学習の充実を図っている。</p> <p>(9)授業では、練習問題として学習状況調査の過去の問題や単元テストの問題に取り組むことで基礎学力の定着を図っている。朝の時間などを活用して取り組んでいるカッシータイムでは、計算力や漢字力などの基本的な力を伸ばす取組をしている。さらに基礎学力を高めていくために、教科の偏りなく充実したカッシータイムを行っていく。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
5 学習への取組	(6)基本的な学習習慣の形成	「学習の約束」強調週間の設定と継続指導 家庭学習の充実 朝読書の実施	3	
	(7)思考力・判断力・表現力の育成	自ら考え、伝え合う場の育成 問いや考えがにつながる授業づくり 振り返りの充実 ICTを活用した授業の充実	3	
	(8)学習環境の整備	学習コーナーの充実 参考作品の掲示による啓発 図書活動の充実	4	
	(9)基礎学力の定着	授業における評価の活用 パワーアップタイムの実施 学習状況の分析と共通理解及び補充指導の実施	3	

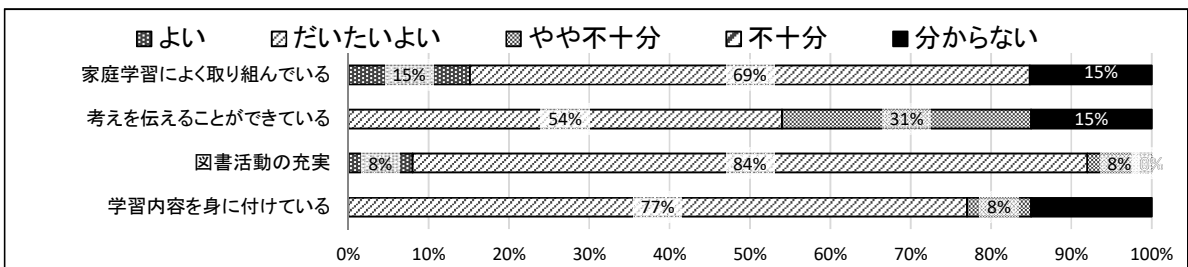
### 児童へのアンケート結果



### 保護者へのアンケート結果



### 職員へのアンケート結果



### 学習強調週間の「学習の約束マスターカード」と全校朝会

#### 学習の約束マスターカード

年 名前		とてもよくなった◎5点	できた○3点	もうすこし△1点
4月	学習用具の準備	チャイム席	アタックスタート あいさつ・返事 発表	挙手発表 目標( ) レベル( )
10 (月)				
11 (火)				
12 (水)				
13 (木)				
14 (金)				
得点				



### 授業でのICT活用場面

### 図書室で行った読み聞かせ会



### 図書室に向かう階段に設置した本クイズコーナー



### eライブラリで問題を解き、学力定着を図っている朝のパワーアップ

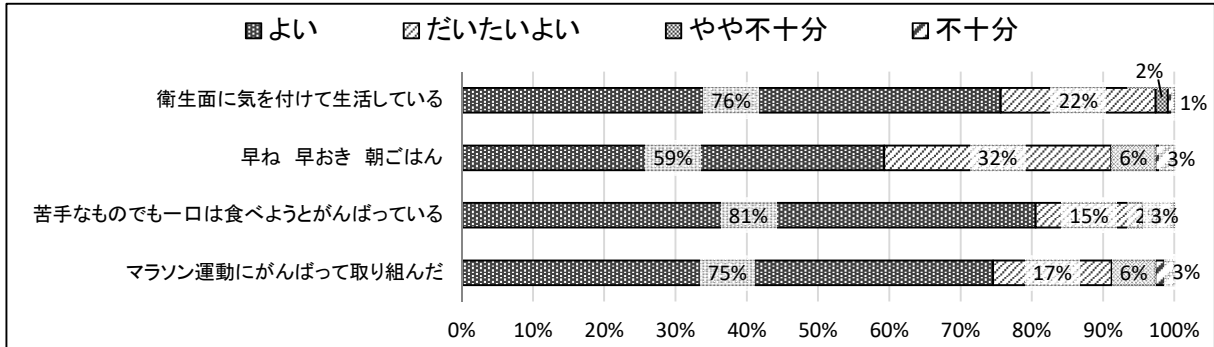


### Ⅲ 健康と体力

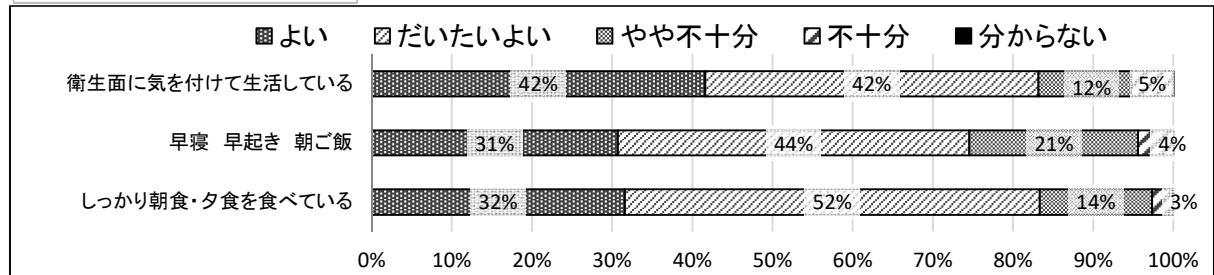
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
体力づくりと健康増進を推進しながら、心身ともに健康でねばり強く物事をやりとげる子を育成しようとしている。	前期	おおむね良好	良好	苦手な物を家庭では食べない児童も、学校では、給食でみんなが食べているから少しでも食べようと努力していると思う。食育・給食指導をこれからも大切にしてほしい。マラソン運動は、職員や友達に励まされながら意欲的に取り組んでおり、体力は付いてきている。運動に苦手意識をもつ児童のために、マラソン、縄跳び運動以外にもゲーム性のあるものなど、楽しみながら体力が付くものを取り入れるのもよいと思われる。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(一年度)】 (10) 新型コロナウイルス感染症の5類移行もあったが、手指消毒などの衛生管理は引き続き指導している。また、昨年度はコロナの影響で映像教材での歯みがき教室であったが、今年度は保健師さんを講師に迎え、実技での歯みがき教室を行うことができた。毎日の歯みがきの大切さや虫歯が進行するしくみ、カーテスターを使用して自分の磨き方が適切であるかどうか学習することができた。中学校区でのメディアコントロール週間では、朝の登校時間帯に第一中学校の生徒が小学校玄関前で、小学生と一緒にメディアコントロール週間の取り組みを周知した。一部児童にはメディア依存が見られるため、改善の一助になるよう期待している。 (11) 望ましい食習慣の形成(食育)では、給食センターの大越先生が、2学年ごとに発達段階に応じた食育指導を実施した。1・2年生は「何でも食べよう」、3・4年生は「フードロス」、5、6年生は「こんだての工夫」をテーマに取り上げた。この中で、1・2年生は紙芝居や栄養素の色分けカードなどを使用しながら、好き嫌いをなく食べることのよさや偏食の弊害について学ぶことができた。「これからは、苦手なものも一口は食べてみたい。」という前向きな気持ちを持続できるよう適宜声かけをしていきたい。 (12) 体力づくりの面では、業間運動として全校マラソンを2期にわたって行った。休み時間20分のうち、10分間を自分のペースで気持ちよく走るよう呼びかけた。また、昨年度の様子から、期間中毎日行くと負担感を覚えるという児童も見られたため、週4回から週3回にしたことで、運動が苦手な児童も、あまり抵抗感なくマラソンに取り組むことができた。後期は室内でできる縄跳び運動に取り組む予定である。			
	【年度(一次年度)】			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 健康的な生活習慣	(10) 健康な生活習慣の形成	清掃指導の充実 メディアコントロールデーの実施と指導 学級活動(生活習慣)・日常における歯磨き・手洗い指導の充実	4	
	(11) 望ましい食習慣の形成	給食指導・食育指導の推進 栄養教諭との連携	3	
7 体力の向上	(12) 継続的な体力づくりの実践	体力向上のための体育的活動・業間運動(マラソン・縄跳び)の実施 内外での遊びの奨励	3	

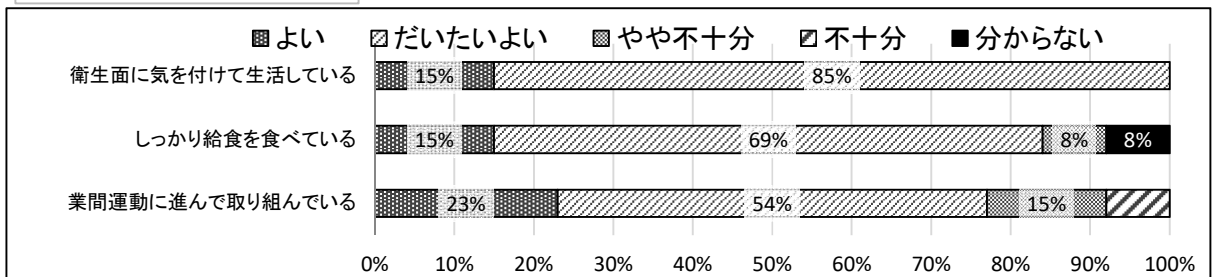
### 児童へのアンケート結果



### 保護者へのアンケート結果



### 職員へのアンケート結果



登校時間帯に中学生が小学校を訪れ、メディアコントロール週間の取り組みを周知した。児童の意識高揚へとつながった。



実際にカラーテスターを使って、自分の歯みがきがしっかりできているか手鏡で確認した。赤い色が残っている児童も見られた。



栄養教諭の大越先生を講師に、食の大切さを学んだ。発達段階に応じた指導内容で、児童も真剣に聞き入っていた。



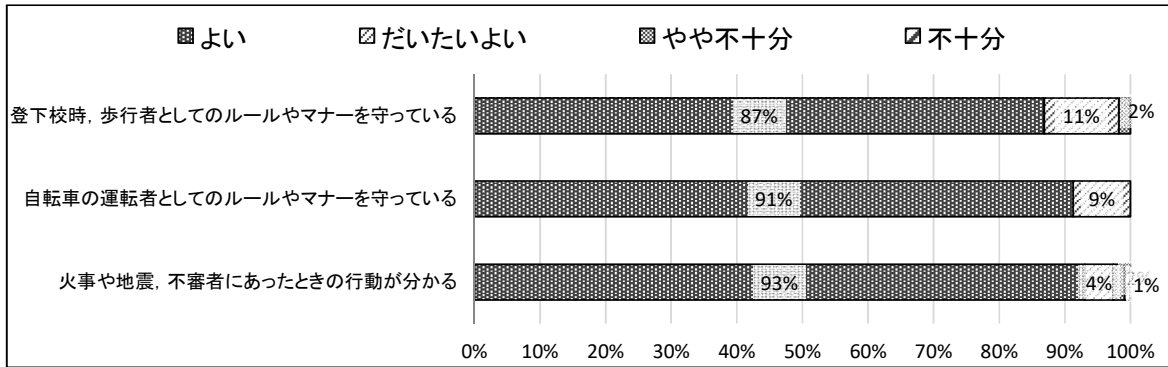
マラソンタイムには元気にグラウンドに出て行き、音楽が鳴る前から走り始めていた。競走する児童もいれば、体力に合わせて走る児童もいた。

## IV 安全・安心

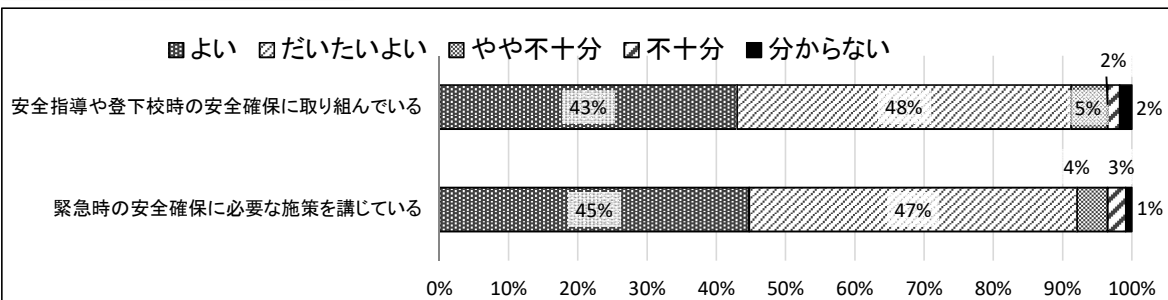
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
児童の安全確保に取り組んでおり、諸問題への組織的対応が図られている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	登下校の見守り、交通教室など、児童の安全・安心を守る取組は、よくやられている。自転車の乗り方については、上小児童は進学すると自転車通学になることを踏まえ、しっかりとした指導(法令遵守)が必要である。また、危機管理についても様々な事態(停電など)を想定し、有事に備えてほしい。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】	<p>(13) 歩行者として、また、自転車の運転者として、ルールやマナーを守っていると答えている児童が「よい」「だいたいよい」を合わせると95%を越えている。4月に交通教室を実施し、1～3年生は歩行指導、4～6年生は、自転車の乗り方指導を行った。交通教室の事前事後指導も含め、随時学級でも安全指導を行っている。しかし、登下校中の自転車事故が発生してしまっている。当該児童には個別指導を行ったり、全校児童には登校指導、町内児童会などで児童の実態を見取り、タイムリーに指導を行ったりすることで安全に対する意識を高めさせ事故防止に努めていきたい。</p> <p>(14) 地震と不審者対応の避難訓練を行った。どちらの訓練も児童は真剣な態度で参加し、アンケート結果からも、児童の災害発生時の危機管理に対する意識の高さが分かる。不審者対応避難訓練では、防犯器具の研修(職員)や警察による防犯教室(児童)を行った。不審者の侵入を防ぐために、教室棟から体育館につながる入口のシャッターが不審者の侵入を防ぐ際、有効であることが分かった。また、保護者の協力を得て、引き渡し訓練を4年ぶりに行い、児童引き渡しの手順について共通理解することができた。緊急連絡メールは、保護者登録が100%であるため、有事の際は迅速に情報提供できるようにしていきたい。今後も、より実際の危機管理体制を構築したり、危機管理に対する職員・児童の意識を高めたりしていきたい。</p> <p>(15) 交通教室では、警察の方、上小子ども見守り隊、大館市交通指導隊、PTA生活指導部の方々と連携して、安全指導を行った。子ども見守り隊は、下校時の見守りも行っており、不審者に対する抑止力にもなっている。また、毎月の登校指導日には、市スクールガードリーダーや池内駐在所巡査長にも朝の登校指導に協力していただき、今後も児童の安全を守っていきけるようにしたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 安全教育と安全管理	(13) 校内外における児童の安全確保	交通教室の実施や防犯意識の啓発 通学路点検 登下校指導 校舎内、校地内の安全点検	3	
	(14) 緊急時を想定した事前・発生時・事後の危機管理	緊急連絡体制の構築 災害別・季節別訓練の見直しと実施	4	
	(15) 各諸団体と連携した安全確保・安全指導	交通安全指導 登下校の見守り活動の実施	4	

### 児童へのアンケート結果



### 保護者へのアンケート結果



#### 〈交通教室〉

4月に交通教室を実施。1年生から3年生までは歩行指導、4年生以上は自転車の乗り方の指導を行った。池内駐在所・大館警察署、子ども見守り隊、市交通指導隊、PTA生活部の方々が自転車・歩行ルートの危険個所を分担して担当し、見守りや声かけをしてくださった。



#### 〈避難訓練(地震)〉

地震を想定した避難訓練を行った。全校児童は、落ち着いて避難行動がとれていた。



#### 〈避難訓練(不審者)〉

不審者対応防犯教室に実践的な内容(逃げる、大声を出す)を盛り込んで行うことができた。



#### 〈避難訓練(引き渡し)〉

保護者の協力を得て、4年ぶりに行った。引き渡し手順を確認することができた。

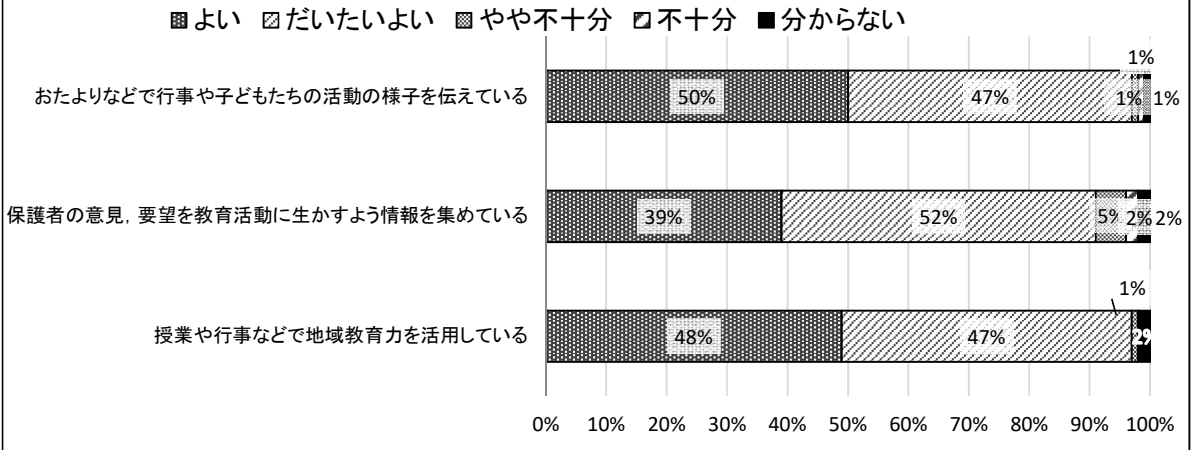


## V 保護者・地域との連携

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
保護者や地域に学校の様子が伝えられ、地域の教育力を有効に活用している。	前期	良好	良好	児童の地域でのあいさつから、地域と学校との良好なつながりを感じている。学校便りやホームページで、学校の取組や児童の様子が、地域や保護者に情報として伝わっていてよい。学年便りが、2週間に1回というスパンでの発行について、予定を見通せるメリットとときどき予定の変更が発生するというデメリットがある。変更の際には、ホームページや学校連絡メールで連絡してほしい。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】	<p>(16)(17)学校の情報発信や情報受信について、保護者の方から、よい・だいたいよいを合わせると90%以上という高い評価を得ている。学校報や学年通信に加え、学校での児童の様子を毎日ブログで紹介している。また、行事や児童の安全面に関することなどについて学校メールでこまめに連絡をしている。保護者や地域の方々からいただいたご意見や要望などには、今後もていねいに対応し、経営に生かしていきたい。</p> <p>(18)異校種との連携では、一中学区小中連携研究会(城西小会場)、小中合同あいさつ運動、こども園の保育参観(教務・1年担任)、こども園や一中学区と時期を揃えての地域のクリーンアップを行った。また、一中生職場体験として本校に卒業生5名が来校し、全校児童と交流した。さらに、こども園の職員を交えての職員研修も行った。今後も中学校やこども園などとの交流や情報交換を通して、連携を密にしていきたい。</p> <p>(19)今年度も様々な方々にご協力いただき、多様な学習や豊かな体験活動が行われている。総合的な学習の時間では、3年生の果樹体験、4年生の餌釣りファーム見学や5年生の田植えなど、地域の方に協力いただきながら豊かなふるさとを体感することができている。また、上小教育の日には、隔年で行われている上小まつり・避難訓練・引渡訓練を行った。子どもたちの創意工夫にあふれた出店を縦割り班で楽しみ、災害時に備えて避難訓練・引渡訓練をスムーズに進めることができた。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
9 情報の受発信と学校経営への反映	(16)保護者・地域への定期的な情報受発信	各種おたよりの発行やホームページの更新・改善による情報の発信 学校評価アンケート等での情報の受信	4	
	(17)学校の使命と保護者・地域の声を生かした経営	学校評価・経営反省を生かした経営計画の修正と改善	4	
10 幼保・小・中の連携	(18)異校種間の情報交換と多様な連携	授業参観等と交流行事の実施 一中学区小中連携研究会 幼小連携活動	4	
11 豊かな体験活動	(19)地域の教育力の活用	とびっきりの上川沿・授業・行事での地域素材・人材の活用 「上小教育の日」の実施 PTA総務部と連携した出前授業の実施	4	

保護者へのアンケート結果



総合的な学習の時間「とびっきりの上川沿」では、今年度もたくさんの方々に協力いただいている。3年生は、石垣果樹園での摘果作業体験の他、校地内のニュートンの木の観察も続けている。4年生は地域の枝豆畑の見学、5年生はJAあきた北青年部のみなさんの協力も得て、今年も稲作体験を行った。6年生は、地域の企業についての調査を行っており、この後PR動画制作を予定している。



7月には幼小連携で、9月には一中学区の小中連携でクリーンアップを行い、自分たちの住む地域をきれいにした。



老人クラブの方々とサツマイモ苗の植え付けと球根掘りを行った。



「上小教育の日」として、上小まつり・避難訓練・引渡訓練を行った。